

Title	$\beta$ -アドレナリン作働薬proccaterolの合成に関する研究
Author(s)	吉崎, 司郎
Citation	
Issue Date	
Text Version	none
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/33028">http://hdl.handle.net/11094/33028</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名・(本籍)	よし 吉	ごき 崎	し 司	ろう 郎
学位の種類	薬	学	博	士
学位記番号	第	5	4	2
学位授与の日付	昭和56年9月24日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当			
学位論文題目	$\beta$ -アドレナリン作働薬 procatamol の合成に関する研究			
論文審査委員	(主査) 教授 田村 恭光			
	(副査) 教授 池原 森男 教授 北川 勲 教授 枡井雅一郎			

## 論文内容の要旨

### 緒言

気管支拡張剤の一種である $\beta$ -アドレナリン作働薬, 例えば salbutamol(1)<sup>1,2)</sup> あるいは terbutaline (2)<sup>3)</sup> など, は気管支喘息治療剤として用いられているが, 喘息発作を効果的に抑制するために, 更に強力な気管支拡張作用, 優れた $\beta$ -選択性および作用持続性を有する $\beta$ -アドレナリン作働薬の開発が望まれている。

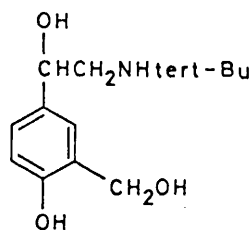
著者は, 優れた $\beta$ -アドレナリン作働薬を見出す目的で8-hydroxycarbostyryl骨格を有する一連の alkanolamine誘導体を合成し, そのうち procatamol [erythro-5-(1-hydroxy-2-isopropylaminobutyl)-8-hydroxycarbostyryl] (3k) が優れた喘息治療剤として用い得ることを見出した。<sup>4,5)</sup>

3kには4種の異性体が存在し得るが, これらを合成した結果, (一)-erythro異性体に $\beta$ -アドレナリン作働活性のあることを明らかにした。<sup>5)</sup> ついで3kの代謝産物の生物試験を行なうために代謝産物5-formyl-8-hydroxycarbostyryl(4)<sup>6)</sup> および5-(2-amino-1-hydroxybutyl)-8-hydroxycarbostyryl (5)<sup>7)</sup> の合成を行ない, また, 3kの合成原料である8-hydroxycarbostyryl類の優れた製造法を確立した。<sup>8)</sup> 更に3kの類縁化合物の薬理作用を調べる目的で3,4-dihydro-8-hydroxycarbostyryl骨格を有する alkanolamine誘導体(6)<sup>9)</sup>, 7-hydroxycarbostyryl骨格を有する alkanolamine誘導体(7)<sup>10)</sup> および allylamino基を有する alkanolamine誘導体(8)<sup>11)</sup> などの合成を行なった。

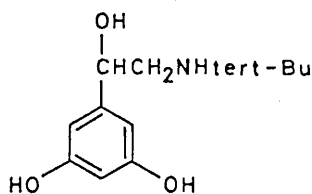
以下に本研究の概要について述べる。

### 第一章 $\beta$ -アドレナリン作働薬 procatamol の合成

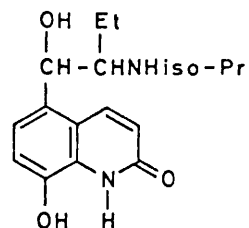
#### 第一節 8-hydroxycarbostyryl骨格を有する $\beta$ -アドレナリン作働薬の合成



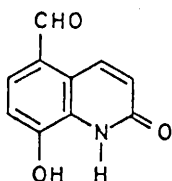
salbutamol (1)



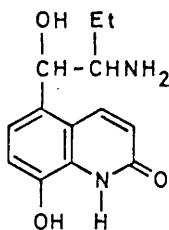
terbutaline (2)



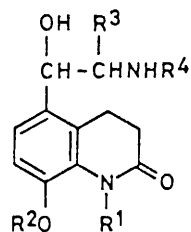
procaterol (3k)



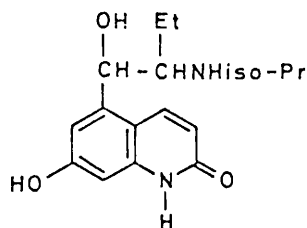
4



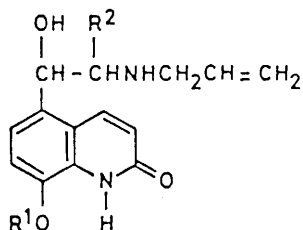
5



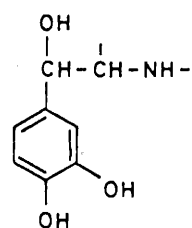
6



7



8



9

$\beta$ -アドレナリン作働薬は一般式(9)で示される基本構造を有しており、その構造活性相関はよく検討されている。特に側鎖部分の置換基の影響<sup>12)</sup>は明確に判明しており、イソプロピルアミノ基またはtert-ブチルアミノ基を有するものが気管支拡張剤として用いられている。このため、近年の $\beta$ -アドレナリン作働薬に関する合成研究は、化合物9の芳香環部分の変換に集中されており、salbutamol (1)あるいはterbutaline(2)などの優れた気管支拡張剤が見出されている。

著者は $\beta$ -アドレナリン作働薬に関する構造活性相関を考察し、2個の弱酸性水素原子を有する8-hydroxycarbostyrylを骨格とするalkanolamine類をScheme 1に従って合成した (Table I)。<sup>4)</sup>得られたalkanolamine類(3)は、aminoketone類(12)のhydride還元によってこれらを合成したので、R<sup>3</sup>がalkyl基の場合にはerythro-formのものが得られる。<sup>13)</sup>

2個の弱酸性水素原子を有する二環式化合物を骨格とするalkanolamine類はこれが最初のものであり、種々の生物学的検討の結果、これらは $\beta$ -アドレナリン作働薬であることが確認され、その構

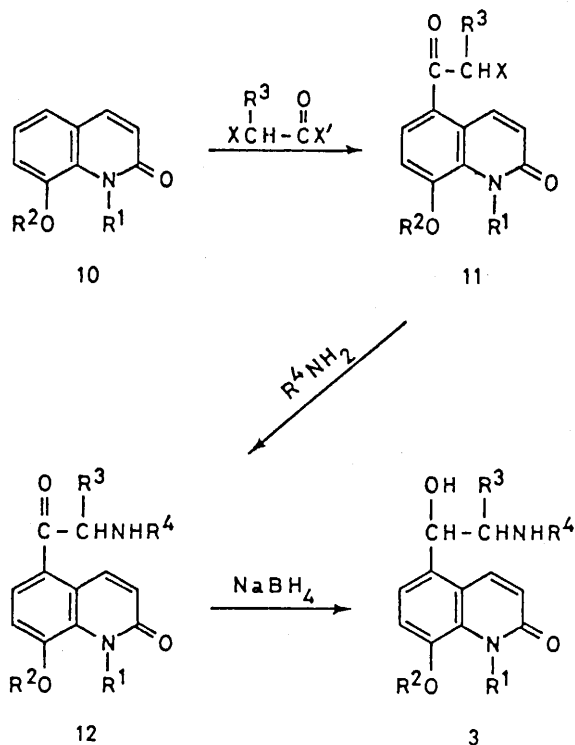
造活性相関も従来のものと比較的良好一致した。化合物 **3** のうち, erythro-5-(1-hydroxy-2-isopropylaminobutyl)-8-hydroxycarbostryl (**3k**, 一般名 procaterol, 商標メプチン) は種々の臨床試験を経たのち, 気管支拡張剤として厚生省より認可され, 1980 年末より喘息治療に貢献している。

### 第二節 procaterol の異性体類の合成

procaterol は 2 個の不斉炭素原子を有し, 4 種の異性体が存在し得るので, 各々の異性体の  $\beta$ -アドレナリン作働作用を検討するために procaterol の光学分割および inversion<sup>14)</sup> によってこれら 4 種の異性体を合成した

(Scheme 2)<sup>5)</sup>

各々の異性体の構造は NMR および旋光度によって確認した。erythro 異性体類は, NMR スペクトルにおいて隣接する 2 個の不斉中心における水素-水素相互作用による 4.0 ~ 4.2 Hz の spin-spin 結合定数を有する 1 個



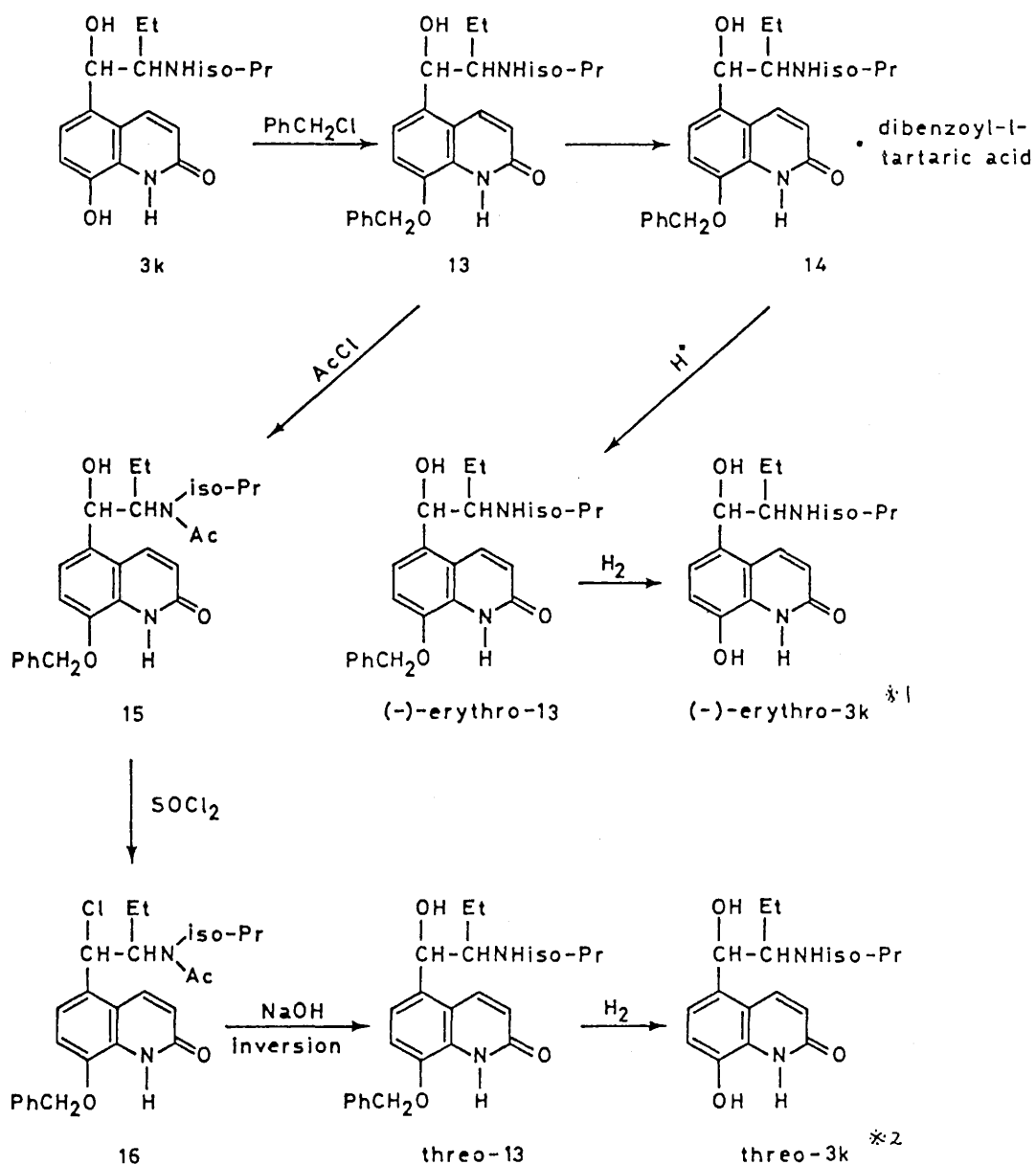
Scheme 1 Synthesis of alkanolamines having a 8-hydroxycarbostryl nucleus

Table I. 5-(2-Substitutedamino-1-hydroxyalkyl)-8-hydroxycarbostryls (**3**)

Compd	R <sup>1</sup>	R <sup>2</sup>	R <sup>3</sup>	R <sup>4</sup>
3a	H	H	H	H
3b	H	H	H	iso-Pr
3c	H	H	H	sec-Bu
3d	H	H	H	tert-Bu
3e	H	H	H	CH <sub>2</sub> Ph
3f	H	H	H	CMe <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> Ph
3g	H	H	H	cyclohexyl
3h	H	H	Me	iso-Pr
3i	H	H	Me	tert-Bu
3j	H	H	Et	Et
3k	H	H	Et	iso-Pr
3l	H	H	Et	sec-Bu
3m	Me	H	H	iso-Pr
3n	H	Me	H	iso-Pr

3h—3l: erythro-isomer

Scheme 2. Synthesis of the isomers of procatenol



※1 dibenzoyl-d-tartaric acidを用いて13を光学分割することにより (+)-erythro-isomerを得る。

※2 (+)-erythro-isomerおよび (-)-erythro-isomerをinversionすることにより、各々 (-)-threo-isomerおよび (+)-threo-isomerを得る。

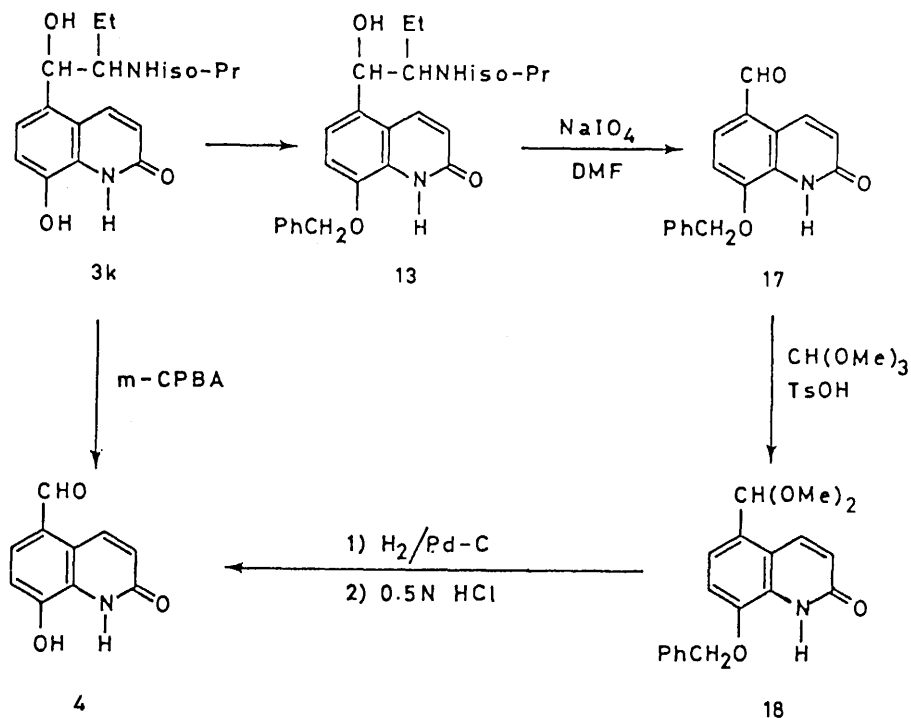
の doublet を 5.7ppm に示し、一方、threo 異性体類は 8.2~8.3Hz の spin-spin 結合定数を有する 1 個の doublet を 5.4ppm に示した。これらの結果を Table II に示す。

Table II. Spectral data of the isomers of procaterol

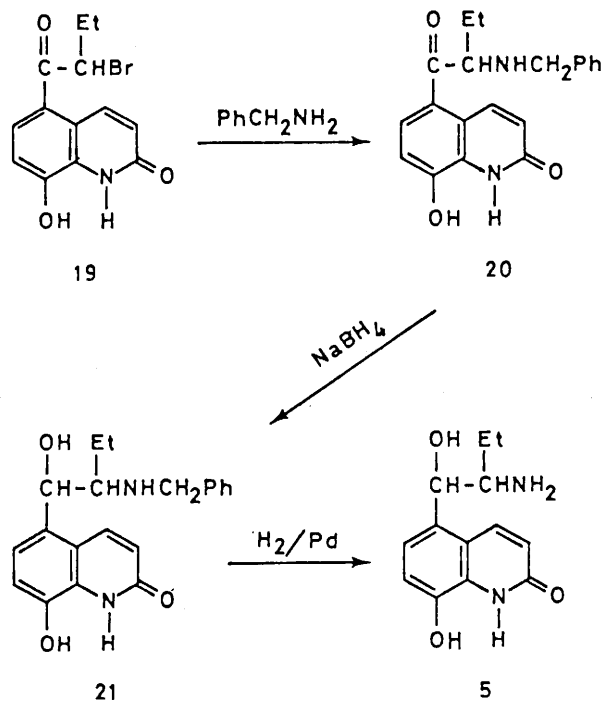
Compd	Coupling const., Hz	Optical rotation
racemic-erythro-3k	4.2 (D <sub>2</sub> O)	
(-)-erythro-3k	4.2 (D <sub>2</sub> O)	-10.4° (c1, MeOH)
(+)-erythro-3k	4.0 (D <sub>2</sub> O)	+10.3° (c1, MeOH)
racemic-threo-3k	8.2 (D <sub>2</sub> O)	
(-)-threo-3k	8.2 (D <sub>2</sub> O)	-46.5° (c1, MeOH)
(+)-threo-3k	8.3 (D <sub>2</sub> O)	+50.0° (c0.572, MeOH)
ephedrine	2.8 (Me <sub>2</sub> SO-d <sub>6</sub> -D <sub>2</sub> O) <sup>15</sup>	
ψ-ephedrine	9.0 (Me <sub>2</sub> SO-d <sub>6</sub> ) <sup>15</sup>	

### 第三節 procaterol の代謝産物の合成

procaterol の各種動物における代謝実験より、その主代謝産物として 5-formyl-8-hydroxycarbostyryl(4) および 5-(2-amino-1-hydroxybutyl)-8-hydroxycarbostyryl(5) が同定された。<sup>16)</sup> 代謝産物 5 の立体構造は決定されていないが、erythro-form を有する procaterol の代謝によってこのものが生成しているので、5 は erythro-isomer であると考えられる。これらの代謝産物の生物試験を行なうために、化合物 4 および 5 を各々 Scheme 3 および Scheme 4 に従って合成した。



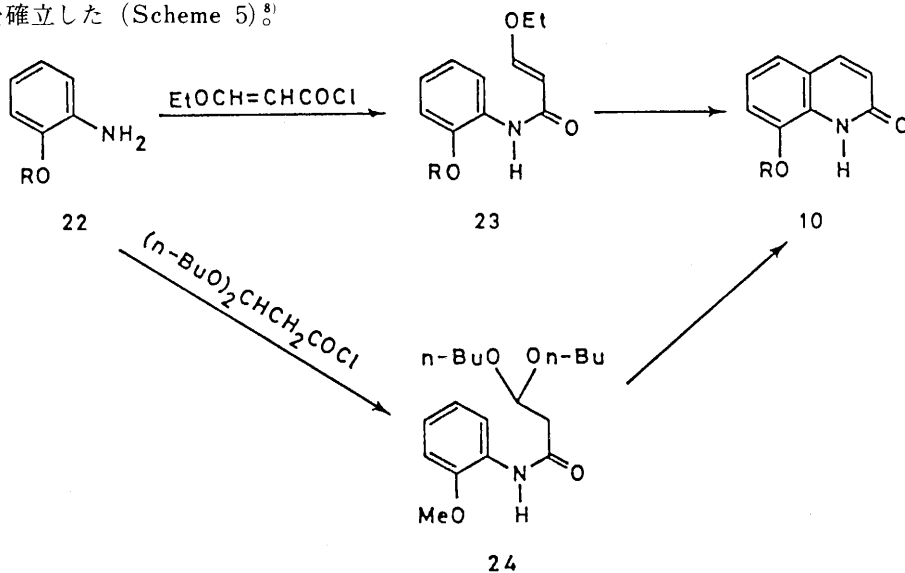
Scheme 3. Synthesis of 5-formyl-8-hydroxycarbostyryl(4)



Scheme 4. Synthesis of 5-(2-amino-1-hydroxybutyl)-8-hydroxycarbostryl(5)

#### 第四節 8-hydroxycarbostryl類の合成

procatamolの合成原料である8-hydroxycarbostryl(10)は、8-hydroxyquinolineのアルカリ熔融<sup>17)</sup>あるいは8-hydroxyquinoline N-oxideの転位反応<sup>18)</sup>などによって合成されるが、これらの方法は大量合成には適していない。このため、*o*-aminophenol類(22)を原料とする8-hydroxycarbostryl類(10)の合成法を確立した (Scheme 5)<sup>8)</sup>

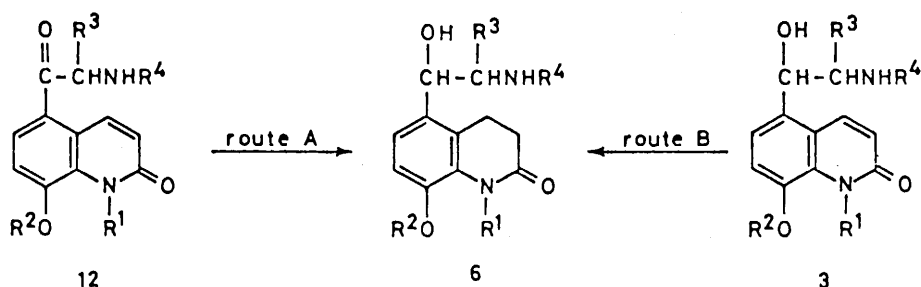


Scheme 5. Synthesis of 8-hydroxycarbostryls(10)

## 第二章 procatерol類似のβ-アドレナリン作働薬の合成

### 第一節 3,4-dihydro-8-hydroxycarbostryril骨格を有するβ-アドレナリン作働薬の合成

3,4-dihydro-8-hydroxycarbostryrilは、procatерolに用いた8-hydroxycarbostryrilと同様に、2個の弱酸性水素原子を有する二環式化合物であり、このものを骨格とするalkanolamine類をScheme 6に従って合成した<sup>9)</sup>。R<sup>1</sup>, R<sup>2</sup>, R<sup>3</sup>およびR<sup>4</sup>は、化合物3に準ずる。

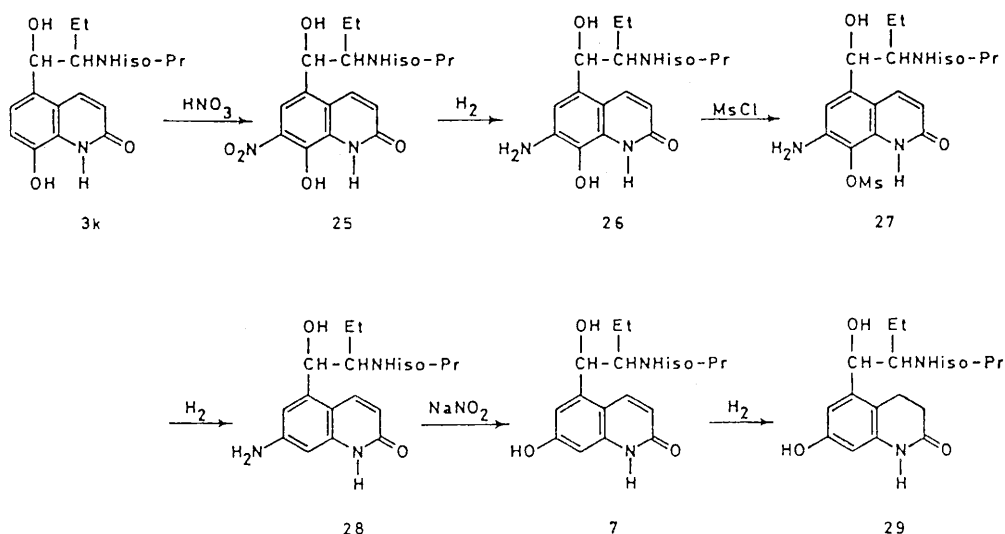


Scheme 6. Synthesis of 5-(2-substitutedamino-1-hydroxyalkyl)-3,4-dihydro-8-hydroxycarbostryrils (6)

### 第二節 7-hydroxycarbostryril骨格を有するβ-アドレナリン作働薬の合成

procatерolが優れたβ-アドレナリン作働薬であることが判明したので、このもののterbutaline型誘導体(7)を合成した。化合物7は、7-hydroxycarbostryrilよりこれを合成することは困難であるので、procatерolを原料として化合物7に変換した (Scheme 7)<sup>10)</sup>。化合物28はNMRスペクトル (Me<sub>2</sub>SO-d<sub>6</sub>) において6位と8位の水素原子のmeta-couplingによって6.62ppmと6.24ppmに2個のdoublet (J=2.2Hz) を示し、7-amino誘導体であることが確認された。

また、化合物7はNMRスペクトル (Me<sub>2</sub>SO-d<sub>6</sub>-D<sub>2</sub>O) において5.69ppmに1個のdoublet (J=4 Hz) を示し、<sup>15)</sup> procatерolからの変換反応においてerythro配置が保たれていることが判明した。

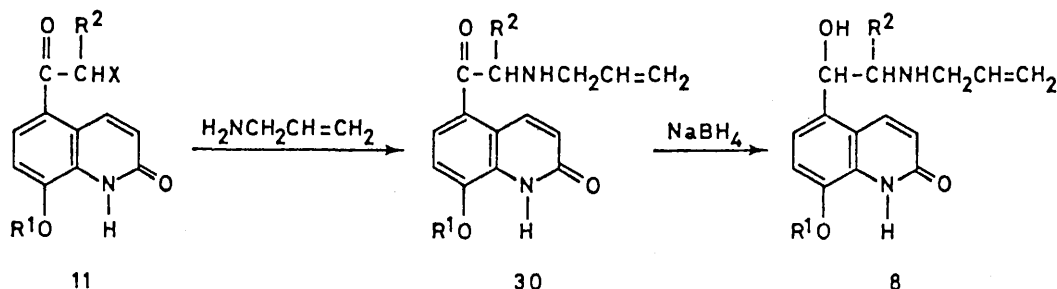


Scheme 7. Synthesis of erythro-5-(1-hydroxy-2-isopropyl-aminobutyl)-7-hydroxycarbostryril(7)



### 第三節 allylamino基を有するβ-アドレナリン作働薬の合成

β-アドレナリン作働作用を目的とするalkanolamine類はalkylamino基またはaralkylamino基を有するものが知られているが、その他の置換amino基を有するものはあまり検討されていない。筆者は、優れたβ-アドレナリン作働薬を得る目的でallylamino基を有するprocaterol誘導体を合成した(Scheme 8)。R<sup>1</sup>およびR<sup>2</sup>は化合物3のR<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>に準ずる。R<sup>2</sup>がalkyl基の場合はerythro-isomerが得られる。



Scheme 8. Synthesis of 5-(2-allylamino-1-hydroxyalkyl)-8-hydroxycarbostryls(8)

### 第三章 procaterolおよび関連誘導体のβ-アドレナリン作働作用

procaterolおよび関連誘導体のβ-アドレナリン作働作用は、モルモットの摘出器官(気管および心房)を用いる方法<sup>19)</sup>あるいは麻酔犬を用いる方法<sup>20)</sup>によってそれらを検定した。以下に得られた結果をまとめる。

- 1) 8-hydroxycarbostryl骨格を有するalkanolamine類(3)は非常に強力な気管支筋弛緩作用および優れたβ-選択性を有しており、isopropylamino基あるいはtert-butylamino基を有するものが気管支拡張剤として望ましいものと考えられた。これらの化合物は更に生物学的検討を行ない、次にprocaterolの臨床試験が行なわれた。
- 2) procaterolの異性体のうち、(-)-erythro-isomerが最も強いβ-アドレナリン作働作用を示し、その効力はprocaterolの約1.5倍であった。一方、(+)-erythro-isomerは非常に弱いβ-アドレナリン作働作用を示し、これらの結果よりprocaterolのβ-アドレナリン作働作用は(-)-erythro-isomerによることが証明された。
- 3) 3,4-dihydro-8-hydroxycarbostryl骨格を有するalkanolamine誘導体は、対応する8-hydroxycarbostryl骨格を有する化合物よりもやや弱いβ-アドレナリン作働作用を示した。
- 4) 7-hydroxycarbostryl骨格を有するprocaterol誘導体は、terbutalineよりもやや弱いβ-アドレナリン作働作用を示した。
- 5) allylamino基を有するprocaterol誘導体は、強力な気管支拡張作用と優れたβ-選択性を示した。

### 結 論

1. 8-hydroxycarbostryl骨格を有する一連のalkanolamine類を合成し、その中procaterol〔erythro-5-(2-isopropylamino-1-hydroxybutyl)-8-hydroxycarbostryl〕が優れた喘息治療剤となることを見出した。

2. procatamolの $\beta$ -アドレナリン作働作用は (—)-erythro-isomerによるものであることを明らかにした。
3. procatamolの主代謝産物である5-formyl-8-hydroxycarbostyrylおよび5-(2-amino-1-hydroxybutyl)-8-hydroxycarbostyrylを合成した。
4. procatamolの合成原料である8-hydroxycarbostyrylの簡易合成法を見出した。
5. procatamolの類縁化合物の $\beta$ -アドレナリン作働作用を調べる目的で、3,4-dihydro-8-hydroxycarbostyryl骨格および7-hydroxycarbostyryl骨格を有するalkanolamine類およびallylamino基を有するprocatamol誘導体を合成した。

#### References

- 1) D. Hartley, D. Jack, L. H. C. Lunts, and A. C. Ritchie, *Nature (London)*, **219**, 861 (1968).
- 2) D. T. Collin, D. Hartley, D. Jack, L. H. C. Lunts, J. C. Press, A. C. Ritchie, and P. Toon, *J. Med. Chem.*, **13**, 674 (1970).
- 3) J. Bergman, H. Persson, and K. Wetterlin, *Experientia*, **25**, 899 (1969).
- 4) S. Yoshizaki, K. Tanimura, S. Tamada, Y. Yabuuchi, and K. Nakagawa, *J. Med. Chem.*, **19**, 1138 (1976).
- 5) S. Yoshizaki, Y. Manabe, S. Tamada, K. Nakagawa, and S. Tei, *J. Med. Chem.*, **20**, 1103 (1977).
- 6) S. Yoshizaki, S. Tamada, and E. Yo, *Chem. Pharm. Bull. (Tokyo)*, **26**, 2267 (1978).
- 7) S. Yoshizaki, E. Yo, and K. Nakagawa, *Chem. Pharm. Bull. (Tokyo)*, **28**, 3439 (1980).
- 8) S. Yoshizaki, M. Osaki, K. Nakagawa, and Y. Tamura, *Chem. Pharm. Bull. (Tokyo)*, **28**, 3441 (1980).
- 9) S. Yoshizaki, E. Yo, and J. Otsubo, *Chem. Pharm. Bull. (Tokyo)*, **26**, 1611 (1978).
- 10) Y. Tamura, S. Yoshizaki, and K. Watanabe, *J. Med. Chem.* in press.
- 11) S. Yoshizaki, E. Yo, K. Nakagawa, and Y. Tamura, *Chem. Pharm. Bull. (Tokyo)*, **28**, 3699 (1980).
- 12) A. M. Lands, A. Arnold, J. P. McAuliff, F. P. Luduena, and T. G. Brown, Jr., *Nature (London)*, **214**, 597 (1967).
- 13) J. Van Dijk and H. D. Moed, *Rec. Trav. Chim. Pays-Bas*, **78**, 22 (1959).
- 14) M. J. Mardle, H. Smith, B. A. Spicer, and R. H. Poyser, *J. Med. Chem.*, **17**, 513 (1974).
- 15) P. S. Portoghese, *J. Med. Chem.*, **10**, 1057 (1967).
- 16) T. Shimizu, H. Mori, E. Tabusa, S. Morita, G. Miyamoto, Y. Yasuda, and K. Nakagawa, *Xenobiotica*, **8**, 349 (1978).
- 17) J. Diamant, *Monatsh. Chem.*, **16**, 760 (1895).
- 18) G. R. Pettit, W. C. Fleming, and K. D. Paull, *J. Org. Chem.*, **33**, 1089 (1968).

- 19) 医薬品開発基礎講座薬効の評価(1)薬理試験法 (上) p. 363津田恭介, 野上 寿編, 地人書館  
20) H. Konzett and R. Rössler, Naunyn-Schmiedebergs Arch. Pharmacol. Exp. Pathol.,  
195, 71 (1940).

### 論文の審査結果の要旨

本論文は $\beta$ -アドレナリン作働薬に関する構造—活性相関の知見にもとずいて行なった喘息治療剤プロカテロールの開発ならびに合成に関する研究である。

吉崎君は、 $\beta$ -アドレナリン作働薬について知られている構造—活性相関の考察より、従来の4-置換カテコール骨核を5-置換-8-オキシカルボスチリル骨核に換えた一連の誘導体を多数合成して、それらの $\beta$ -アドレナリン作働作用をしらべた。その結果、プロカテロールが優れた喘息治療剤となることを見出し、その作用は(—)-erythro異性体によることを明らかにした。この研究は $\beta$ -アドレナリン作働薬の構造—活性相関に関して新しい知見を加えたものといえる。

本研究はプロカテロールの経済的に合成法についても検討を加えており、医薬品化学及び合成化学の領域に重要な寄与をするもので学位論文として価値あるものと認めた。